

# 2019年度 こどもの木かげ・玉成幼稚園 自己評価・学校関係者評価

《こどもの木かげ・玉成幼稚園の自己評価》

## 1. 基本理念・保育方針

### ■こどもの木かげ 2002 基本理念

『汝らは、地の塩、世の光である』(マタイによる福音書5章第13節—14節)

キリスト教の愛の精神を基とし、幼な子が、自ら生きる力を高め、豊かな個性を育むことをめざしています。  
こどもの木かげ(玉成幼稚園・野のはな空のとり保育園)では、0歳から就学まで一貫した保育方針にもとづき子どもの育ちに取り組んでいます。

### ■玉成幼稚園 保育方針

個の生活と集団での生活がバランスよく営まれるように配慮しながら、友だちや周りの人たちに受け入れられていることを意識し、お友だちとの相互交渉を通じて「ともに生きる喜び」を身につけられるように育てていきます。

保育は、「子どもの心に絵を描かせる」時間と場所の提供であり、子どもの傍らには子どもを励ます保育者がいて、イメージや想像力をたっぷりと与えてあげられる保育の時間と、子どもが自分であそび、自分で学ぶことができるように工夫された保育の流れをつくっていきます。

こんな子どもに育てほしい・・・アルウィン学園のめざす子ども像

- ①生きる力の礎である「自らの力で探求ししながら人とのかかわりをとおして生きる喜びや自己実現が達成」できるように
- ②「一人一人が違ってよい」興味や得意なことを伸ばし個性豊かなになれるように
- ③あそびをとおして感性や知的能力・創造性・社会性を体得できるように

## 2. 活動状況と自己評価

### 【基本事項】(こどもの木かげ共通)

#### ◆子どもたちが、自らの力でとりくむ姿勢が育ち、友だちとのかかわりを高め、育ち合っているか

保育環境を整え、子どもたちが自ら好きなあそびにとりくみ、いろいろなことを体験する中感じる気持ち・発見を大切に保育をおこなってきた。学年を超えて、子どもたちの自然なかかわりがあり、それぞれ刺激を受け合い、育ちあっている。子ども同士のかかわりの中で、さまざまなやりとりが生まれ、相手の気持ちを考えてかかわろうとする姿が見られている。

#### ◆子どもたちに豊かな感性が育つようとりくみや自発的なあそびをとりくめるように保育をおこなってきたか

自分でじっくりとりくめる時間と空間を保障し、子どもがやりたい活動が十分できるように援助することを大切に保育をおこなっている。あそびに必要なものを、自分でつくりだしてみようとしたり、年上の子がつくっているものを真似してつくってみようとしたり、やりたいと思ったときにすぐにつくりだせる教材を整えていくことを丁寧におこなってきた。

### 【重点的に取り組む事項】

#### ◆内部研修の強化をし、こどもの木かげの基本理念・保育方針に基づく保育を確実にこなっていく

- ・研修体系・研修内容のさらなる見直しをおこない、保育を高めることにつなげていく
- 園全体での研修をとおして「保育方針・保育目標」が日常の保育に反映していることを常に確認し、より質の高い保育を目指していく
- 初任者研修を丁寧におこない、園の保育方針に沿った保育の実践を確実にこなうことにつなげる
- 中堅職員研修を実施し、経験をさらにかせるような学びの場をつくり、保育を高める意識を引き出し、中堅職員の力を発揮できるようにして
- リーダー会議をリーダー研修と位置づけ、学年・園全体のさまざまな内容を精査し、園全体の保育を高めていく

経験年数別研修を取り入れ、それぞれの経験に合わせた研修やディスカッションなどをおこない、一人ひとりの職員がもっている力が発揮できるようにすすめてきた。まだスタートしたばかりなので、継続しておこなう中で、より職員の意欲が高まり、「こんな勉強がしたい」「こんな話し合いをしたい」などの意見が出てくるようにしていきたい。リーダー会議の中で、園の目指すべきところを確認でき、各学年の保育につなげるようにしている。

#### ◆職位に応じた仕事の遂行を徹底する

- ・それぞれの役割を理解し、保育者一人ひとりが力を発揮できる環境を整えていく
- ・経験に応じた仕事・役割を各自がより意識をもち、一人ひとりが園の運営を支えていく意識を高める

それぞれに任された仕事を確実にこなっていく中で、リーダーシップを発揮したり、援助する側にまわったり、1つの仕事に対しても、みんなで協力してすすめていく体制は整ってきた。より意欲的にというところを引き出していくとともに、いつも決まったやり方ではなく、新しい方法も取り入れ、業務の効率化を図っていきたい。

#### ◆保育内容の充実を図る

- ・今年度からとりくみを再構築する「造形活動」「描画活動」に関して、研究をおこない、子どもたちの表現活動がより広がっていく援助を考え、実践していく(日常の保育でのとりくみ・保護者に対する説明・園としてのとりくみの発信などを含む)

実際の保育では、「造形活動」「描画活動」にとりくんできたが、研究という観点で考えると、とりくみを評価・分析する力が弱かった。継続して子どもたちのとりくみを追ひ、どのように変わってきたのか、より何が必要なのかということ、意識的に確認していくことが必要である。さらにそのとりくみをHPや園だよりなどとおして、伝えていくこともあわせておこなってきたい。

### 3. 今後の課題、取り組んでいきたいこと

- 1 園の基本理念・保育方針に基づく保育の実践につなげるような内部研修を継続的におこない、より具体的な保育実践をおこなっていく。また経験年数別研修を積み重ね、それぞれの経験がより生かされ、職員が生き生きと働く職場づくりをすすめていく。
- 2 「造形活動」「描画活動」の実践研究・報告をおこない、子どもたちのとりくみをしっかり分析・評価をして、保育の質を高める。
- 3 保護者に対して、各クラス懇談会、個人面談、保育参観を意識的に活用し、その年齢の子どもたちがどのように成長していくのかという目安を伝えながら、年間をとおして計画的に支援していく。その中で、園の考え方もあわせて伝えていく。  
ケースカンファレンス（子どもに対する個別援助）を継続しておこない、個別の援助を高め、保育をすすめていくことを丁寧に続けていく。担任1人で子どもの援助を考えていくのではなく、子どもの姿をとらえ、どのようにかかわることが必要なのかを話し合い、全職員に周知し、チームで子どもとかわり保育をしていくことを意識していく。

### 【運営委員（学校関係者評価）の評価】

#### 1 当年度の活動状況について

昨年度、10年ぶりに改訂された幼稚園指導要領と園の保育方針が整合していることを確認し、保育の現場でなすべきことを職員全体で共有した。ハンドブックの理解、内部研修の充実、行動計画への落とし込みなどを実施した。当年度は内部研修を職員の経験年数に応じて展開し、インプットの充実を図るとともに、ディスカッションやメンタリングにより日々の保育で感じた疑問をすぐに解決し、自信をもって保育にあたることができるようなスピード感を加えている。初任者が担任になることや途中で担任が交代することには、常に保護者から不安と期待が寄せられるものであるが、園としてその期待に応えるべく、特に初任者に対して丁寧に研修を実施し、スムーズに玉成の保育方針を理解できるように努めている。また中堅職員がリーダーシップを発揮し、保育の質を高める意識を持つように、リーダー会議を重視した。

#### 2 今後のとりくみ

常に保育の基本に立ち返り、PDCAサイクルを回しながら保育の質を高めていく。今後も、経験年数別研修やリーダー研修を行い、保育者のモチベーションを高めていくとの説明を受けた。また、造形・描画の研究の観点で、子どもたちの取り組みを評価し、個性を生かす保育の質を高めていく方針である。保育園と家庭の連続性にも意識し、子どもが地域の中で伸びのびと育っていただけるように、保護者への支援にも力を入れていく。

#### 3 総合所見

「良い子どもを育てるには良い母親を育てること」とのアルウィン先生のお言葉にもあるように、子どものこかけは子どもにとって居心地の良い場所であると同時に、保育者や保護者にとっても居心地の良い場所であることを改めて感じた。運営委員会のわずかな時間であっても、園庭の中に入ると、柔らかな空気感の心地よさを感じる。この空気感は一日でできるものではなく、先生方の真摯で地道な日々の活動のたまものであると確信する。家族構成の変化、地域の年齢構成の変化、個人の価値観の変化、社会環境の変化など、めまぐるしく動き、園に対する期待も変化している中で、保育の基本方針が変わることなく守り、実践することは、決して簡単なことではないと推察する。しかし、このような時代だからこそ「玉成らしさ」が大切であるということが、運営委員会メンバーの一致した意見である。今後とも、保育の質にこだわった園でいていただきたい。